

9/19 高尾水晶さんが  
土曜日 第43回県少年の主張発表芳賀地区大会で優秀賞

第43回栃木県少年の主張発表芳賀地区大会で最優秀賞を受賞した、芳賀中学校3年生の高尾水晶さんは、県総合文化センターで開催された同大会の県大会に出場し、見事に優秀賞を受賞しました。「自分らしく生きるために」と題し、新型コロナウイルスの発生により日本国内で広がる偏見や差別などに言及し、堂々と主張しました。

高尾さんは「受賞してとてもうれしい。自分が書いた文章を少しでも多くの人に読んでもらい、気持ちが伝わればうれしい」と笑顔で話しました。



高尾 水晶さん

自分らしく生きるために

芳賀町立芳賀中学校 三年

高尾 水晶

「反日」「嫌韓」。今、韓国や中国について検索しようとすると、必ずヒットする言葉です。また、テレビなどでも日本製品を不買運動している韓国や、日本の排他的経済水域に堂々と入ってくる中国船の話が流れているのを目にします。そのため、私は中国や韓国の人たちは日本人に対して、あまりよい感情を持っていないと思っています。あの言葉を聞くときまでは。

私は、父の転勤で小学校六年生の六月に中国の武漢へ引っ越し、インターナショナルスクールに転入しました。テレビのニュースやインターネットで知っていたこともあり、私はとても不安でした。日本人だからという理由でいじめられるのではないかと。しかし、それは私の杞憂でした。誰もが私に本当に優しく接してくれました。ある時、中国人と韓国人の友人に、こんなことを言われました。

「日本ってすごい所だね。」

「日本はゴミが落ちていないってニュースで見たと。」

「日本の物は品質が良くて長持ちするんだってね。」

「日本人は親切なんだよね。」

韓国や中国の人は日本人が嫌いなのだと、ニュースを見て思い込んでいただけで、日本の良さを理解してくれる中国人や韓国の人もいるのだ、と驚きました。また、私が抱いている中国人の印象も、武漢で暮らしていくなかで、大きく変わってきました。私が中国に来る前に抱いていたのは、「他人に迷惑をかけても気にせず、自分を優先させる。」などといった、自己中心的なイメージでした。しかし、電車やバスの席もすぐに譲ってくれたり、列に入れてくれたりと私たち他国の子どもにとっても優しくしてくれました。本当は優しい人がたくさんいて、日本の良さを理解してくれる人もいるのです。

「色々な考えの人がいる。」よく考えれば当たり前のですが、日本では、このような報道をあまり見たことがありません。だからこそ日本人は中国人の良い面や日本人に対して好意的に思っている人もいることをあまり知りません。私は中国で暮らしたことで、新しい視点を得ることができました。

私は、中学二年生の十二月に日本に帰国し、武漢での出来事や生活、また中国人の良い面をたくさん日本人に伝えたいと思っていました。しかし、私が日本に帰って一ヶ月後、あるニュースが世界中に広まりました。それは、「コロナウイルス、中国の武漢で発生。」というニュースです。コロナウイルスは、ちょうど春節の時期にあたり、中国人が世界中に旅行に出かけたことで広まったと言われています。それからすぐに、SNSに「武漢から来るなよ。」「武漢の人最低。」「中国人に近寄るな、感染する。」などと書き込まれるようになり、不安になりました。武漢から帰ってきたばかりの私は、「日本人の敵に思われているのかな。」と、不安になりました。母からは、「武漢から帰国したことを言わないほうがいいわよ。」と釘を刺されました。世界では日本人は優しいと言われているのに、どうしてこんな言葉がSNSではあふれているのか、どうして武漢にいたことを隠さないといけないのか納得できませんでした。武漢の人が悪い訳ではないのに、私は何もしていないのに。悪いのは、コロナウイルスなのに、雇った人を悪者にする別のウイルスが世界中に拡散していると思えました。そして私は、気が付いたのです。これこそが、差別が生まれる一つの原因なのだと。得体的にしないウイルスに自分は感染したくないという防衛本能から、雇った人やその家族を避けるようになり、悪口や陰口を言うことで、偏見や差別が始まり、それが周りに深く根ざしてしまうのです。コロナウイルスに雇っていないことは、雇った人を差別する理由になるのでしょうか。

世界中には、コロナによる差別だけではなく、たくさんの差別がまだ根強く残っています。人種差別、民族差別、男女差別などです。なぜ、こんなに世界中で差別があり、対立し、争っているのでしょうか。私たちは、一人一人違う。一人一人が違うからこそ、新しいアイデアが生まれ、世界を変えてきました。一人一人が違っているからこの世界ができています。世界を平和にしたいのなら、一人一人の違いを受け入れ、分かち合うことが大切です。そのためには、「寛容」な心が今こそ必要なのです。違いを許し、違いを受け入れる。そうすることで、自分らしさを出すことができる世界になっていくと思います。だから、私はもう武漢から帰国したことを隠しません。自分らしく生きていくために、そして、差別や偏見に負けない自分になるために。



町と連携協定を行ったサイクルスポーツマネージメント株式会社から、町に宇都宮ブリッツェンのユニフォームが寄贈されました。ユニホームと、芳賀チャンネルの番組「芳賀チャリ」に出演した阿部高之選手と西村大輝選手のサインが役場内に飾ってありますので、

来庁した際はぜひご覧ください。

また、役場東側駐輪場に、宇都宮ブリッツェン応援自動販売機が設置されました。自動販売機には宇都宮ブリッツェンのロゴなどが描かれており、売り上げの一部が宇都宮ブリッツェンの支援になります。



9/4 金曜日  
9/11 金曜日

宇都宮ブリッツェン  
ユニフォーム寄贈・応援自動販売機設置

TOWN REPORT

《タウンレポート》



AUTUMN  
2020.11

8/26 水曜日

町指定有形文化財に「十三佛」が指定されました



下高根沢の堀合・三日市集落に何世代にもわたって守られてきた、旧氏家町出身の画家荒井寛方による「十三佛」が、町指定有形文化財に指定されました。制作から100年近く経過し、褪色や表装の剥離が見受けられることから、平成30年10月に総合情報館に寄託、保存されています。11月7日(土)から同館にて開催される岩村秀巖展にて鑑賞することができます。

8/30 日曜日

与能健康塾



与能地区で健康塾が行われ、25人が参加しました。この事業は、参加者が自分の健康に関心を持ち、健康づくりに対して積極的に行動できることを目的に実施されています。今回の健康塾は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため少人数で各測定が行われました。血圧測定、体組成測定、血管年齢測定を行い、自分の健康状態を確認したことで健康について考える良い機会となりました。

9/8 火曜日

町建設業協会が町に50万円寄付



町建設業協会から町に50万円の寄付がありました。町建設業協会は、12社で組織されており、新型コロナウイルス感染拡大防止のための資金として役立ててほしいとの思いから寄付されました。見目町長は「新型コロナウイルス感染拡大防止のため、町民のために使わせていただく」と感謝の言葉を述べました。

9/16 水曜日

町最高齢者小川ミチさん  
表敬訪問



9月1日現在で町最高齢者となった小川ミチさん(東水沼)のもとを、見目町長が表敬訪問しました。小川さんは、記念品や花束が手渡されると「ありがとうございます」とはっきりとした口調で答えました。小川さんは103歳で、以前は農家としてお米や野菜を育て、作った野菜を調理して食べるのが好きだったそうです。